

危険なオスプレイ機訓練は中止を 市に要望



北海道防衛局が9日、「演習」を目的に、8月21日～同月23日まで、陸上自衛隊所属の輸送機V22オスプレイが、札幌市内の丘珠駐屯地をはじめ道内3駐屯地に飛来すると発表しました。

これを受けて市議団は、秋元克広市長宛てに、オスプレイの道内飛行の中止を政府に求めること、木更津駐屯地から丘珠駐屯地までの飛行ルート、丘珠駐屯地における離発着訓練の詳細について公表

を求め、道及び関係市町への説明責任を果たさせることを求める要望書を提出しました。

池田由美団長は「14年17年22年と3回要望してきた。今回は自衛隊機であり、政府の判断で訓練中止を」と内容を説明。対応した町田隆敏副市長は「8月9日に丁寧な説明と必要十分な情報提供、また徹底した安全管理を求めた」と回答しました。丘珠空港がある地元から長屋いずみ市議は「安全性についての根拠は防衛局から示されているのか」と質問。続けて太田秀子市議が「民間機の離発着に影響はないのか」と質問し、オスプレイ飛行が恒常化・日常化することに危機感を表明しました。町田副市長は、安全性の根拠は示されていないことを認めつつ、民間機への影響も差しさわりがあるとは聞いていないと回答しました。

8月19日 大都市税財政 DX 調特 吉岡市議 質問



超過負担は必要な費用 財源確保を国に求めよ

国庫補助負担金対象事業における指定都市の超過負担について吉岡市議が質問しました。

現在、国庫負担金の対象事業である保育所等運営費や障害者自立支援給付費、中学校小学校校舎の建設費用などの必要費用の確保が不十分なため、足りない分を指定都市が負担しています。

札幌市においても、令和6年度の主な超過負担の合計額は110億円で、そのうち保育所等運営費の超過負担額は35億円と見込まれています。また、昨年度予算は34億円であることも明らかになりました。

また、国における保育士の4・5歳児

の配置基準が、76年ぶりに見直され、今年度から30人から25人に見直されたことに伴い、札幌市においては保育所運営費の超過負担額3000万円が弱軽減するものと試算されています。吉岡市議は、「今年度の本市の保育所等超過負担35億円の内訳について」質問し、加配保育士分25億円、障害児保育事業費5億円、給食業務を補助する調理員等の雇用分4億円について、これらは現場では必要不可欠な事業であり、地方が必要とする分については、市が持ち出しをするのではなく、本来国が総額を出すべきだと述べ、質問を締めくくりました。